

# 夢が広がる

(日本工学院北海道専門学校)

# 魅力の新学科に改編

学校法人・片柳学園（当時・日本電子工学院）が、文化と教育、福祉の充実を重点施策としてすすめる市の強い要請に応え、日本工学院北海道専門学校を開校したのは昭和57年4月。以来、情報技術をテーマに高度な情報教育を続けてきました。

21世紀を迎え、著しく変化する社会情勢に対応するため、同校は、新たな分野を開くさきがけとして、平成14年4月から、実践的な『ものづくり』の技術者を養育する『総合テクノロジー科』と、自動車のハイテク化に対応できる二級整備士を育成する『自動車工学科』を新設します。

今号では、新たな分野を開こうとしている日本工学院北海道専門学校を紹介します。

## 『ものづくり』を目指す学科として改編します

現在の社会情勢は目まぐるしい速さで多様に変化しています。

特に、学校教育では、少子化の影響も加わり、学校の統合や教育内容にまで変化をもたらしています。

また、コンピュータ技術や電子工学技術は、パソコン機器やデジタルAV機器、カーナビなど、一般家庭への普及に目覚ましい進歩を遂げています。

これまで日本工学院は、電子工学科と機械制御工学科を設け、情報化社会や産業界の要求に応じたハードウェア

を中心とした技術教育を行ってきました。

しかし、これからは、電子工学や機械制御工学のような設計理論や基本原理より、ソーラーカーやロボット、福祉機器づくりなど、部品一つひとつに自らが手を加えて知識を得ていく実践的な『ものづくり』が要求されるため、これまでの電子工学科と機械制御工学科を統合して、『総合テクノロジー学科』として改編します。

また、近年、自動車は地球環境や福祉を考慮した車に変化し、求められる規制基準や整備技術の水準も高度化しています。

このような中で、ハイテク自動車の

変化に対応する自動車整備士を目指す人たちへのニーズに応じて、機械制御工学科での機械制御技術を生かし、国土交通省認定の二級自動車整備士を養成する『自動車工学科』を新設します。

## 『総合テクノロジー科』ってどんな学科？

『総合テクノロジー科』は、その名のとおり、「ものづくりの技術とハードを総合的に学ぶ」という目的で設立されます。

それは、多くの企業が求める、『豊かな感性と技術を持ち合わせた人材』に応えるもので、知識つめこみ型では

なく、ものづくりを楽しみながら実践的能力を身につける新しいかたちの学科なのです。

総合テクノロジー科では、ソーラーカーやロボット、福祉機器など実際にものづくりを行う中でエレクトロニクス（電子・電気）やメカニズム（機械制御・コンピュータ）の知識や技術、さらにはデザインの役割などを学んでいきます。

『実体験に基づく生きた技術の習得』をモットーに、一人ひとりの成功体験や失敗体験、グループワークを通して得られる人間関係も貴重な財産となります。

ものづくりを通じてトータルテクノ



日本工学院北海道専門学校

〒059-8601・登別市札内町184-3

(TEL) 0888・(FAX) 0900

ホームページアドレス・<http://www.nkhs.ac.jp/>